

第2回看護職員需給見通しに関する検討会（H27.12.18）

における主なご意見（今後の需給見通し関係）

- 人口構造の変容のインパクトが想像以上に大きく、需要と供給の両面に影響を及ぼす。日本全体で見ると看護需要は当面は増えていき、看護等のニーズも相当違ってきている。供給面では、労働力人口が減っている中で労働力の奪い合いになっている。そうした中で、これだけ看護の需要があるのでこれだけの供給量が必要といった単純な積み上げ方式でよいのか、よく考えていく必要がある。
- 日本全体のマクロの数字だけではなくて、分配の問題も重要。看護師でも、地域偏在の問題、病院と在宅のバランス、居宅の延長としての施設・居住系が重要になってくることを考えると、それらのバランスと配分をどう考えていけばよいのかという問題がある。その必要量が仮に推計できたとしても、そこにどのようにして誘導していけばいいかという難題がある。そこまで考えないと実効性を持たないことになってしまうことを危惧する。
- 実際に出されている現場の要望と地域医療構想で示されている方向性をどのようにマッチさせていくのかも難しい問題。今までのやり方がある程度生かしながら、地域医療構想、地域医療計画等で示される方向性をうまく盛り込んでいく方法を検討していく必要がある。
- 看護職は、医療機関だけではなく、訪問看護ステーションや市町村、介護保険施設など、地域のさまざまな場所で働いているため、需給見通しの策定においては、総数について議論するだけではなくて、病院や在宅、介護施設といった領域、病床の機能も念頭に置いた需要の把握と確保対策が重要になる。
- これまでの看護師需給見通しは、医療現場の認識や実感とかけ離れていた。今後、医療に関するいろいろなデータが活用できるようになるとしても、適切・妥当な需給見通しを策定することはとても困難だという印象。ただ、検討の過程でいろいろな情報が開示され、病院も在宅も含めて現在の医療現場がどうなっているのかをみんなで考えるためのデータが出てくれば、需給見通しの検討の役割は非常に大きい。需給見通しがこれになりましたという結論ではなく、いろいろな検討の経過がわかる形で進めていく必要がある。

- 推計に当たっては、3つの視点が重要。一つ目が現状の配置ベースでの推計。二つ目は、各機関・施設等が募集している欠員数がすべて満たされた場合の推計。三つ目は、適正労働時間数と有給休暇等の適正な取得率を前提とし、かつ実際の患者の重症度を反映した適正人員配置に基づく推計。
- 問題は、慢性期機能及び在宅医療などの推計。各都道府県の構想区域における要介護度別の種々の医療・介護サービスのニーズ、介護保険と医療保険それぞれの訪問看護の利用ニーズを踏まえての推計が必要。精神病床においても看護師をどのように配置していくのか、議論を進めていく必要がある。
- 高齢化が進むと、有病率が高いだけではなく、せん妄と認知症の患者が急性期ベッドを埋めているということがたくさんある。頭数だけではなくて、手のかかる方がどれくらいいるかということも、これからは看護師の需給に大きく関係してくるのではないかな。
- 今までの看護需要の検討は、病院等の施設医療あるいは介護にどれだけ必要かという需要だったと思うが、2025年のあるべき姿を地域医療構想等で出てくる形にするならば、在宅に大変な量のマンパワーを入れなければいけない。とするならば、そこに関しての策定方式を新たにつくって、在宅医療推進ならば相当な覚悟をもって訪問看護職員を増やす方向性をつくらなければいけないのではないかな。
- 地域包括ケアシステムが有効に機能して在宅医療が普及している地域では、ベッドは要らない。地域が主体的になってケアするという妥当性は明らかで、在宅医療の意義は、病院のベッドの受け皿だけではないことを理解してほしい。地域医療構想と何かの整合性については、地域包括ケアシステムだと思う。そういった認識のもとで、訪問看護師の需要の見通しについては議論を膨らませていただかないといけない。
- 需給見通しを考える際の一つの指標は、在宅看取り率ではないかな。今の日本の在宅死亡率を例えばオランダやフランス等の在宅死亡率に持って行くとすれば、今の状態では非常に足りない。訪問看護師をどういう方策で増やしていくかが大きな課題。
- 在宅医療を進める上で訪問看護は大事。2025年における訪問看護はいかなるものかという推測をしなければならない。2025年の段階では幅広い医療活動が訪問看護機能に要求されるのではないかな。それには研修が必要になってくると思うので、在宅分野の機能と病院との相補的な研修システムなどが今後できる体制ができればよい。そうしたことに対応するために、まずは現在の訪問看護機能の充足度と、2025年における数、機能等を整理して対応能力がいかなるものかということを考えていただきたい。